



## 文芸部 優秀賞 受賞！

今回、自分の作品がこのような賞をいただけたことに驚きを感じるとともに、とても光栄に思います。詩を作ることはあまり得意ではないのですが、苦手意識を取り払うためにチャレンジしてみて良かったです。今回の作品は「当たり前の中に潜む大切なモノ」をテーマに執筆しました。読む人に寄り添えるような作品になれば幸いです。これからも、周囲の人々や環境から様々なことを感じ、日々躍進していきたいと思います。

(2年4組 柴田 穰 佐沼中出身)

今回、随筆の部で優秀賞をいただきました。「諦めを観る」という題名の通り、自身の社会や物事に対する諦観の視点や、そのラインを一種の理想のように書いています。自己満足の延長の作品がまさか賞をいただけるとは思わずとても驚いていますが、今は本当に嬉しく思っています。改めて、このような賞に選んでいただき、ありがとうございました。(3年1組 中嶋 瑞季 三本木中出身)



## 剣道部男子東北大会出場決定！！



蓮 田尻中出身他)

剣道部だ。俺たちは11月14日に行われた県高校新人大会に参加し、準決勝で仙台南高校に敗れ、惜しくも県3位という結果で終わってしまった。俺たちは県の代表として、2月の東北選抜大会に参加させていただく。必ず武功をあげてこの古川高校に凱旋し、校庭で全校生徒に凱歌を歌ってもらう予定だ。もちろん、凱歌を歌えないヤツは前に出すつもりだ。覚悟しておけ。

また、来年の県総体では必ず優勝し、インターハイに出場する。俺たちがこの自称進学校の名を全国に轟かせてやる。応援を頼んだ。(2年4組 佐々木

## 第六十四回青少年読書感想文コンクール

## 自由図書部門 部会長賞（宮城県）3名受賞

宇宙飛行

小さい頃は、本ばかり読んでいました。本を読む間は、普段とは違う時間軸に放り込まれたような感覚で、自分の知らない世界がどこまでも広がっていることに大きな喜びを感じました。情報を得るツールは本以外にもたくさんありますが、一冊の本が出版されるまでの著者や編纂者、校閲をする人の苦労や覚悟が含まれた「本」を、私は愛さずにはられません。(2年3組 北谷香菜子 古川中出身)



※作品名「『金閣寺』を読んで」

## 一期一会を大切に

私は今年の読書感想文にナチスドイツに関する本を選びました。ヒトラーに抵抗する同世代の勇気ある行動にエネルギーをもらうとともに、平和や自由について深く考えさせられる内容でした。私は普段本を選ぶとき、タイトルと表紙のデザインで決めます。今回も、表紙の若者達の清々しい笑顔に惹かれて手に取りました。これからも、直感を大切に素敵な本との一期一会の出会いを楽しみたいです。



※作品名「今、求められること」

(2年5組 村山 真子 若柳中出身) ※著書名『正義の声は消えない～反ナチス・白バラ抵抗運動の学生たち～』

## 本と出会って

本はいわばただの文字の羅列にすぎず、読書はそれを目でなぞっていくだけの行為。それなのになぜこんなに人の心を揺さぶり魅了するのだろう。私はきっと本の中にある空間が好きなのだと思う。誰も入って来ることのできない自分とこの本だけが作り上げた空間が。一度世に出た作品は永遠に変わらず、その空間も薄れることはあっても消えてなくなったりはしない。私はこれからも読書によって自分だけの居場所を作り続けたい。



(1年6組 鈴木 優羽 小牛田中出身)

※作品名「それでも人は生きてゆく  
—『キッチン』を読んで—

## 大学出前講座実施！



1・2年生を対象とした毎年実施している大学出前講座ですが、今年は新型コロナの影響で一部の大学がオンライン形式での実施となるなど、いつもとは多少異なる形になりました。しかしながら例年同様、大学の講義や研究を垣間見ることが出来る90分間は、生徒にとって大きな刺激を受ける有意義な時間になったに違いありません。大学の先生方からは、「案内役の生徒の対応がすばらしかった」、「生徒がとても熱心に聞いてくれたことで、講義してよかった」などとの感想をいただきました。

さらに、生徒のメモや感想はどれもしっかりと書かれており、講義していただいた先生にぜひ見ていただきたいということで全て送付しました。受講した生徒のみなさんは、この行事をとおして自分の進路目標実現に向け、一段と学習の励みになったのではないのでしょうか。

## 第45回全国高等学校総合文化祭（紀の国和歌山総文2021）

### 【将棋部門】に付添参加して！！

定刻になり対局が始まると会場全体に響き渡る対局時計の音。各選手の指し手には深く正確な読みだけではなく、様々な想いが込められていた。コロナによって開催すら危ぶまれた大会であったが、そんなことは関係ない。対局後には各選手たちが将棋を介して交流し、互いを高め合う姿も多く見られた。実力主義の盤上で、先輩が残した記録に一步でも近づけるよう、これからも日々精進していきたい。(2年4組 齋藤 里玖 古川南中出身)

